

建設技術審査証明書

技術名称：P-取付ライニング工法
(取付管の修繕工法)



(開発の趣旨)

取付管の非開削による修繕方法においては、樹脂を使用し現場硬化を行う工法が主流だが、施工時の臭気や品質管理に課題がある。また、ポリエチレン製の本管に対しての接合可能な工法が無かった。これらの課題に対応するため、工場二次製品であるポリエチレン製の補修材料を使用することにより臭気が発生せず、安定的な品質や強度が得られ、ポリエチレン製の本管と取付管補修材料を電気溶着にて一体化できる工法を開発した。

今回、施工延長を10mまで拡大し、内外水圧の水密性を0.1MPaとした。

審査証明第1425号

(開発目標)

本技術の開発目標は、次に示すとおりである。

- 施工性：次の条件下で施工できること。
 - 延長10m以下
 - 段差20mm以下の継手部
 - 隙間50mm以下の継手部
 - 60度以下の曲管
 - 隙間30mm以下の取付管と本管の接合部
 - 取付管と本管取付け部との一体化
- 水密性：補修管および本管との接続部は0.1MPaの内水圧および外水圧に耐える水密性を有すること。
- 耐荷強度：耐荷強度が硬質塩化ビニル管呼び径100の規格1.70kN/m以上および、呼び径150の規格3.38kN/m以上であること。
- 耐薬品性：CPIパイプ、電熱PEシートおよびスカートカフスは「下水道用硬質塩化ビニル管 (JSWAS K-1)」と同等以上の耐薬品性を有すること。
- 耐摩耗性：CPIパイプ、電熱PEシートおよびスカートカフスは「下水道用硬質塩化ビニル管 (JSWAS K-1)」と同等以上の耐摩耗性を有すること。
- 耐高圧洗浄性：本管と取付管の接合部は、15MPaの高圧洗浄で剥離・破損がないこと。

(公財)日本下水道新技術機構の建設技術審査証明事業(下水道技術)実施要領に基づき、依頼のあった「P-取付ライニング工法」の技術内容について以下のとおり証明する。

なお、この技術は2013年3月13日に審査証明を取得し、変更された技術である。

2015年3月10日

建設技術審査証明事業実施機関

公益財団法人 日本下水道新技術機構

理事長 石川忠男

記

1. 審査の結果

上記すべての開発目標を満たしていると認められる。

2. 審査証明の前提

- 提出された資料には事実と反する記載がないものとする。
- 本技術に使用する材料は、適正な品質管理のもとで製造されたものとする。
- 本技術の施工は、標準施工マニュアルに従い、適正な施工管理のもとで行われるものとする。

3. 審査証明の範囲

審査証明は、依頼者から提出のあった開発目標に対して設定した審査方法により確認した範囲とする。

4. 審査証明の詳細

(建設技術審査証明(下水道技術)報告書参照)

5. 審査証明の有効期限 2020年3月31日

6. 審査証明の依頼者

- エフアールピーサポートサービス株式会社 (兵庫県神戸市兵庫区遠矢浜町2番44号)
株式会社オクムラ道路 (大阪府大阪市港区弁天6丁目1番3号)
京都興業株式会社 (大阪府堺市北区東浅香山町1丁49番地)
大幸道路管理株式会社 (兵庫県神戸市兵庫区島上町2丁目2-22-2F)
東拓工業株式会社 (大阪府大阪市淀川区三津屋南1丁目1番33号)